

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	精選 現代の国語(東京書籍)						
副教材等	キーワード漢字2700(浜島書店)、デジタル版漢字テスト(浜島書店)						

1 授業及び学習の方法等

1、自分の考えを言語で表現したり、他者と議論をしたりしながら、「書く」・「話す・聞く」力を高める。 2、場の状況に応じて、適切な資料や機器を選択し、他者に伝えることで「話す・聞く」力を高める。 3、論理の展開を工夫し、読み手を意識して書いた文章をお互いに読み合うことで「書く」力を高める。 4、目的に応じて、情報の分量や重要度などを考えて文章を構成することで「書く」力を高める。 5、文章の内容・構成・論理展開に着目した読み取りや、比較読み・データ読み取り等を通じて、「読む」力を高める。 6、様々な文章のなかで漢字や語句について学び、語彙力を高める。 7、ペアワークやグループワーク等を随所に組み込み、自主的な学習を促す。

2 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	・定期考査 ・ワークシートの記述等	・定期考査 ・ワークシートの記述 ・授業の取り組み状況等	・課題への取り組み状況等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目)、教材、目標	主な評価規準
前期 中間	自己と他者	まだ知らない自分に出会う【話／聞】3h 図書館の利用法【話／聞】2h 評論の読み方【読】1h 届く言葉【読】2h 心に響いた言葉【書】6h	a:漢字・語彙力を高める。情報と情報の関係を理解する。文・話・文章の組み立て方や接続の仕方を理解する。 b:【話／聞】話し言葉の特徴を踏まえて話し、相手の理解が得られるように表現を工夫する。 【書】目的や意図に応じた適切な材料や表現形式を選んでいる。 【読】内容・構成・論理展開を的確に捉え要旨を把握する。 c:言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
前期 期末	言葉を深める 言葉と社会	今ここにある無数の未知【読】2h 言葉は世界を切り分ける【読】2h まちの豊かさとは何か【読】2h 新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる【書】8h 新書レポート【話／聞】5h	a:漢字・語彙力を高める。情報と情報の関係を理解する。情報の妥当性や信頼性の吟味を行う。 b:【話／聞】目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集・整理して、伝える内容を工夫する。 【書】目的や意図に応じて、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直す。 【読】内容・構成・論理展開を的確に捉え要旨を把握する。積極的に、学習課題に沿って発表の準備をし、スピーチや質問する活動をしようとしている。 c:言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
後期 中間	世界を広げる	白【読】3h ものと記号【読】2h 異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く【書】6h 引用の方法【書】2h 新書レポート【話／聞】5h	a:漢字・語彙力を高める。情報と情報との関係を理解する。情報の妥当性や信頼性の吟味を行う。 b:【話／聞】目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集・整理して、伝える内容を工夫する。 【書】目的や意図に応じて、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。引用の仕方や出典の示し方を理解し、的確に表現することができる。 【読】論理展開を把握しながら、自分の考えを深める。 c:言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
後期 期末	共に生きる	真の自立とは【読】2h 共鳴し引き出される力【読】2h 実用文を読む——公園のバリアフリー【読】2h 論証してレポートを書く【書】8h 新書レポート【話／聞】5h	a:漢字・語彙力を高める。情報と情報との関係を理解する。情報の妥当性や信頼性の吟味を行う。 b:【話／聞】目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集・整理して、伝える内容を工夫する。 【書】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 【読】内容・構成・論理展開を的確に捉え要旨を把握する。 c:言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

※ 表中の観点について a:知識・技能、b:思考・判断・表現、c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

※ 年間の各領域時間数 「話／聞」…(20)時間、「書」…(30)時間、
「読」…(20)時間

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2単位	年次	1
使用教科書	精選言語文化(東京書籍)						
副教材等	読解をたいせつにする体系古典文法九訂版(数研出版) / 四訂版読解をたいせつにする体系古典文法準拠ノート(数研出版) / 必携 新明説漢文 ～句法と語彙と一緒に学ぶ～ 新装二版(尚文出版) / 必携 新明説漢文ノート ～句法と語彙の定着を図る～(尚文出版)						

1 授業及び学習の方法等

- 1、上代から現代にわたる作品や関連文章(評論等)を読み、様々な内容やものの見方、感じ方、考え方に触れ、我が国の言語文化について論述したり発表したりすることで「読む」力を高める。
- 2、異なる時代・文化のもとに成立した作品を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりすることで「読む」力と「書く」力を高める。
- 3、古典作品や伝統的行事・文化に関する題材を選び、それに関するレポートを作成したり相互観賞したりすることを通して、「書く」力を高める。
- 4、様々な作品や文章を読むことで、語感を磨き、語彙の質を高める。

2 学習の到達目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 - (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評 価 方 法	・定期考査 ・小テスト ・レポート 等	・定期考査 ・ワークシート ・振り返りシート 等	・レポート ・ワークシート ・振り返りシート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	言葉に触れる	1.現代文(随筆)「言葉を届ける」 2.古文「児のそら寝」「大江山の歌」 3.漢文「格言」「守株」	a:言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり 古典特有の表現などについて理解する。 b:(読)作品や文章に表れているものの見方、感じ方、 考え方を捉え、内容を解釈する。 c:(書)自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章 の構成、展開や、語句などの表現の仕方を工夫する。
前期 期末	言葉を織り成す	4.現代文(小説)「羅生門」 現代文(評論文)「下人の青春」 古文「羅城門」 5.古文三大随筆 徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」 方丈記「ゆく河の流れ」 枕草子「ありがたきもの」 6.漢文(詩文) 王維・孟浩然・李白・王翰・杜甫	a:語句の量を増し、文化的背景について理解を深め、 語感を磨き語彙を豊かにする。 作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 b:(読)文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色 について評価する。 c:(読)作品や文章の成立した背景や他の作品などとの 関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 (書)自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の 種類、文体や、描写、語句などの表現の仕方を工夫す る。
後期 中間	言葉で創る	7.詩歌「小景異情」「一つのメルヘン」 「I was born」 8.古文(物語)『伊勢物語』 「東下り」「芥川」「筒井筒」「梓弓」 9.漢文(史話)「管鮑之交」 10.現代文(小説)「鏡」	a:文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解す る。 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言 葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の 言葉とのつながりについて理解する。 b:(書)自分の知識や体験の中から適切な題材を決 め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現した ことを明確にする。 c:(読)作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見 方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化につ いて自分の考えを持つ。
後期 期末	言葉へ乗せる	11.古文(日記)『土佐日記』 「馬のはなむけ」「忘れ草」「忘れ貝」 「帰京」 12.漢文(思想)「論語」 13.古文三大和歌集 14.桜の作品・恋の歌の読み比べ	a:言語文化の特質や日本の文化と外国の文化との関 係について理解する。 言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について 理解する。 b:(読)文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色 について評価する。 c:(読)作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見 方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化につ いて自分の考えを持つ。 (書)自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、 集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいこ とを明確にする。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

※ 年間の各領域時間数 「書」…10時間、「読(古典)」…40時間、「読(近代以降)」…20時間

教科	国語	科目	現代文探究 I	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	論理国語(筑摩書房)／文学国語(筑摩書房)						
副教材等	漢字Lab 3500(浜島書店)／デジタル版漢字テスト(浜島書店)／読解を深める現代文単語 評論・小説 三訂版(桐原書店)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

1.論理国語、文学国語の教科書を両方使用して授業を進める。補助教材としてプリントも使用する。 2.グループワークやペアワークを随所に組み込み、自主的な学習を求める。 3.論理的文章においては正確・的確な根拠にもとづく読解力、小説・詩歌においては心情を豊かに読み取る力を培う。 4.自ら思考を進めていくための語彙力の充実と読解力の充実を2本柱としながら、記述力を養う。 5.漢字、ならびに現代文単語は主に授業時間外の課題とする。週1回の漢字、単語テストに取り組むこと。取り組んだ内容は、定期考査に出題する。

2 学習の到達目標

1.近代以降の文章を読むことを通して、論理的、批評的に考える力を伸ばす。 2.文学作品を読むことを通して、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 3. 1.2のような読解の活動を礎として、創造的に考える力を養い、他者とのかかわりの中で伝え合い、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 4.語句の意味や用法を的確に理解し、自分の言語活動に役立てられるだけの語彙力を養う。 5.読書を通して、人間や社会や自然に対する深い見方・感じ方・考え方を体得する。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	- 語彙を豊かにしている。 - 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 - 効果的な段落の構造や論の形式など文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 - 情報と情報の関係、推論の仕方について理解を深め、情報の重要度や抽象度などによって整理することができる。 - 文学的な文章について、その特徴や表現技法について理解を深めている。	「書くこと」に関して、文章構成、論理展開等を工夫しながら、自身の主張が的確に伝わる文章を書くことができる。また、その文章を推敲することができる。 「読むこと」に関して、文章の要旨を的確に把握することができる。また、関連する文章や資料を基に、解釈を深めたり、多様な論点、価値観と結びつけて、自らの考えを深めたりすることができる。	- 総合的な言語能力の獲得に向けて、自ら学習を調整し、学ぼうとしている。 - 読み取った文章を自分の身近な問題として把握し、課題に臨もうとしている。
評 価 方 法	- 定期考査 - ワークシート - 小テスト 等	- 定期考査 - ワークシート - レポート 等	- 授業への取り組み - ワークシート - レポート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	／物語と日常の中の出会／論点／架橋することば	1.【小説】中島敦『山月記』 2.【評論】内田樹「物語という欲望」／河野哲也「ファッションの現象学」 3.【随想】齋藤陽道「異なり記念日」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、筆者の考え方や物事を見る観点を学び、自身の視野を広めたり考えを深めたりしている。 b[書]: 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫して書いている。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
前期期末	己と向き合う時代／変貌する人間／歴史に向き合う	5.【評論】吉川浩満「人新世における人間」／川島慶子「変貌する聖女」 6.【小説】夏目漱石「こころ」 7.【評論】湯川秀樹「荘子」	a: 文体の特徴や修辞などの様々な表現技法を適切に理解しながら、効果的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、筆者の考え方や物事を見る観点を学び、自身の視野を広めたり考えを深めたりしている。また小説、随想を通じて、多様な作品との比較から、文体の特徴や効果について、十分に考察を深めている。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期中間	世界を視る位置／日常の裂け目／伝統～を見つめ直す	9.【評論】今福龍太「ファンタジー・ワールドの誕生」／湯浅誠「貧困は自己責任なのか」 10.【小説】目取真俊「魂込め」 11.【評論】佐藤俊樹「桜が創った『日本』」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、文章の論旨を捉えながら、批判的に検討し、文章の妥当性を吟味しながら内容についての考察を深めている。また小説、随想を通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について考察しながら、適切に内容を解釈している。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期期末	現代の道筋を課題と捉え、私生活をひ	13.【評論】船木亨「トリアージ社会」／杉田敦「権力とは何か」 14.【詩歌】中原中也「サーカス」・宮沢賢治「永訣の朝」・短歌 15.【随想】寺田寅彦「化け物の進化」 16.【評論】丸山眞男『『である』ことと『すること』	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、文章の論旨を捉えながら、批判的に検討しながら内容についての考察を深めている。また小説、随想を通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について考察しながら、適切に内容を解釈している。 b[書]: 様々な観点から情報を収集し、整理して、目的や意図に応じた表現を用いて表現している。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	古典探究 古文編(数研出版)、古典探究 漢文編(数研出版)						
副教材等	体系古典文法 九訂版(数研出版)／体系古典文法学習ノート 三訂版(数研出版)／体系漢文 三訂版(数研出版)／体系漢文準拠ノート 改訂版(数研出版)／四訂版わかる・読める・解けるKey&Point 古文単語330(いっずな書店)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

【古文・漢文共通】 ・古文と漢文の学習の割合は、ほぼ3:2とする。 ・教科書の教材を主に使用するが、必要に応じてそれ以外の教材も選定する。 ・補助教材としてプリントを使用する。 ・授業時間内では、グループやペアでのワークがある。主体的に参加する必要がある。 【古文分野】 ・「古文単語330」は主に授業時間外の自主課題とする。週1回出題する単語テストに取り組むこと。取り組んだ内容は、定期考査に出題する。 【漢文分野】 ・1年次に既習の句形を用いて読解する。授業中にすべての句形を扱うことはできないため、自主的に復習していく必要がある。
--

2 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。 ・古典の作品やその背景、古典常識を身に付け、理解を深める。 ・古典文法について理解を深める。 ・古典作品の修辞などの表現の特色について理解を深める。	・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈する。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 ・内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりする。	・古典の知識・技能の獲得に向けて、自ら学習を調整し、学ぼうとしている。
評 価 方 法	・定期考査 ・小テスト 等	・定期考査 ・ワークシート 等	・定期考査 ・ワークシート ・授業態度 ・小テストへの参加 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目)、教材、目標	主な評価規準
前期 中間	一条帝の時	・助動詞の総復習 ・敬語法 ・大鏡 雲林の菩提講 ・大鏡 南院の競射 ・ズームアップ 摂関政治と藤原道長	a: 古文・漢文の読解に必要な基礎的知識(基本古語、時代背景、助動詞や助詞、敬語法、漢文句法、中国思想など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解したり文章表現したりすることができる。また、時代・人物背景に基づいて、作品の理解を深めることができる。 c: 小テストおよび表現課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。
	中国思想①	・ズームアップ 諸子百家 ・孟子 不忍人之心 ・荀子 性悪 ・韓非子 侵官之害	
前期 期末	中国思想②	・老子 無為之治 ・莊子 夢為胡蝶 ・莊子 混沌	a: 古文・漢文の読解に必要な基礎的知識(基本古語、時代背景、助動詞や助詞、敬語法、漢文句法、中国思想など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解したり文章表現したりすることができる。また、文学的・思想的つながりに着目して、作品の理解を深めることができる。 c: 小テストおよび表現課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。
	紫の物語	・更級日記 物語 ・源氏物語 光源氏誕生 ・ズームアップ 唐の繁栄と衰退 ・源氏物語 小柴垣のもと ・ズームアップ 『源氏物語』の魅力	
後期 中間	平家の滅亡	・平家物語 壇ノ浦 ・源平盛衰記 失われた宝剣 ・建礼門院右京大夫集 なべて世の	a: 古文・漢文の読解に必要な基礎的知識(基本古語、時代背景、助動詞や助詞、敬語法、漢文句法など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解したり文章表現したりすることができる。また、歴史の描かれ方に着目して、作品を鑑賞することができる。 c: 小テストおよび表現課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。
	項羽と劉邦	・ズームアップ 項羽と劉邦 ・史伝 鴻門之会	
後期 期末	詩歌の力	・史伝 鴻門之会 四面楚歌 ・ズームアップ 和歌にまつわる常識 ・古今和歌集仮名序 やまと歌は ・沙石集 兼盛と忠見 ・四季の和歌と漢詩	a: 古文・漢文の読解に必要な基礎的知識(基本古語、時代背景、助動詞や助詞、敬語法、和歌修辭、漢文句法、漢詩修辭など)や技能が身に付いている。 b: 身に付けた知識を用いて、文章を読解したり文章表現したりすることができる。また、詩歌がもつ力に着目して、作品を鑑賞し味わうことができる。 c: 小テストおよび表現課題の趣旨を理解して、意欲的に取り組んでいる。

※ 表中の観点について a:知識・技能、 b:思考・判断・表現、 c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	現代文探究Ⅱ	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	論理国語(大修館書店)／文学国語(筑摩書房)						
副教材等	漢字Lab 3500(浜島書店)／デジタル版漢字テスト(浜島書店)／デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)／入試現代文頻出語700(数研出版)／2026 共通テスト対策【実力完成】直前演習 国語(ベネッセ)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

1.論理国語、文学国語の教科書を両方使用して授業を進める。補助教材としてプリントも使用する。 2.グループワークやペアワークを随所に組み込み、自主的な学習を求める。 3.論理的文章においては正確・的確な根拠にもとづく読解力、小説・詩歌においては心情を豊かに読み取る力を培う。 4.自ら思考を進めていくための語彙力の充実と読解力の充実を2本柱としながら、記述力を養う。 5.漢字、ならびに現代文単語は主に授業時間外の課題とする。週1回の漢字、単語テストに取り組むこと。取り組んだ内容は、定期考査に出題する。 6.共通テストを意識した授業を展開する。
--

2 学習の到達目標

1.近代以降の様々な文章について、筆者の意図を正確に読み取り、その内容を適切に表現できるようにする。 2.語句の意味や用法を的確に理解し、自分の言語活動に役立てられるだけの語彙力を養う。 3.ひとつの課題から自らの意見を持ち、思考し、伝達する力を養う。 4.読書を通して、人間や社会や自然に対する深い見方・感じ方・考え方を体得する。 5.社会に対して、自分なりの意見を持ち、それを適切な方法で表現できる力を体得する。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・文章を読む上で必要な漢字能力、知識を身に付けている。 ・読み取った文章を的確に伝え得るだけの語彙力を養い、それを自分の言葉として扱うことができる。 ・時代背景など、読解に必要な文学的知識、歴史的知識を習熟している。 ・現代の語彙だけではなく近代の語彙にも精通し、読書の幅を広げられている。	・語彙を自分のものとして、自らの言語表現に活かすことができている。 ・読み取った文章を身近な状況と照らし合わせ、自分と関わりのある現代の問題として捉えることができる。 ・言葉を的確に使用し、自らの考えを第三者に表現することができる。 ・相手から伝えられた情報を正しく理解し、自らの考えを深めることができる。	・総合的な言語能力の獲得に向けて、自ら学習を調整し、学ぼうとしている。 ・読み取った文章を自分の身近な問題として把握し、課題に臨もうとしている。
評 価 方 法	・定期考査 ・ワークシート ・小テスト 等	・定期考査 ・ワークシート ・レポート 等	・授業態度 ・ワークシート ・レポート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	小説・文随を想・解するⅠ 詩歌を理解するⅠ	1.【評論】坂井豊貴「多数決を疑う」【小説】安部公房『靛』 2.【随筆】三島由紀夫「小説とは何か」【小説】森鷗外『舞姫』 3.【評論】松村圭一郎「人はなぜ贈与するのか」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、筆者の考え方や物事を見る観点を学び、自身の視野を広めたり考えを深めたりしている。また小説、随想を通じて、多様な作品との比較から、文体の特徴や効果について、十分に考察を深めている。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
前期期末	小説・文随を想・解するⅡ 詩歌を理解するⅡ	4.【評論】江下雅之「ネットワーク上のコミュニケーション」【評論】多木浩二「消費されるスポーツ」 5.【評論】野矢茂樹「猫は後悔するか」【評論】丸山真男「『である』ことと『する』こと」 6.【韻文】詩・俳句【小説】津村記久子『王国』	a: 文体の特徴や修辞などの様々な表現技法を適切に理解しながら、効果的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、筆者の考え方や物事を見る観点を学び、自身の視野を広めたり考えを深めたりしている。また小説、随想を通じて、多様な作品との比較から、文体の特徴や効果について、十分に考察を深めている。 b[書]: 様々な観点から情報を収集・整理し、目的や意図に応じた表現を用いて表現している。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期中間	小説・文随を想・解するⅢ 詩歌を理解するⅢ	7.【随筆】石原吉郎「ある〈共生〉の経験から」 8.【評論】熊野純彦「言語と他者」 9.【小説】魯迅『藤野先生』 10.【評論】鷲谷いづみ「生物多様性の恩恵」・竹内啓「地球システムの中の人間」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、文章の論旨を捉えながら、批判的に検討し、文章の妥当性を吟味しながら内容についての考察を深めている。また小説、随想を通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について考察しながら、適切に内容を解釈している。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。
後期期末	小説・文随を想・解するⅣ 詩歌を理解するⅣ	11.【評論】加藤周一「日本文化の三つの時間」 12.【随筆】大江健三郎「チャンピオンの定義」	a: 文章読解に必要な語彙力を高めながら、文章の中で積極的に活用している。 b[読]: 評論を通じて、文章の論旨を捉えながら、批判的に検討しながら内容についての考察を深めている。また小説、随想を通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について考察しながら、適切に内容を解釈している。 b[書]: 文章の構成や表現などを吟味し、自分の文章を捉えなおし、文章作成を行っている。 c: 小テストや授業中の発問、ワークシートなどに意欲的に取り組もうとしている。

※ 表中の観点について a: 知識・技能, b: 思考・判断・表現, c: 主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	精選 古典探究 古文編(明治書院)／精選 古典探究 漢文編(明治書院)						
副教材等	体系古典文法九訂版／体系漢文／わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330(い いずな書店)／デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

- ・古文と漢文の学習の割合は、およそ3:2とする。
- ・教科書の教材を主に使用するが、必要に応じてそれ以外の教材も選定する。
- ・補助教材としてプリントを使用する。ノートの準備は不要。
- ・授業時間内では、グループやペアでのワークがあり、主体的に参加する必要がある。
- ・1～2年生時に培った古典の基礎知識に基づいた読解力を駆使して、代表的な古典文学作品を読み深めていく。
- ・「単語帳」は週1回程度出題する単語テストに取り組むこと。取り組んだ内容は、定期考査に出題する。
- ・問題演習などを折に触れて実施することで、入試対応力を養う。

2 学習の到達目標

- ①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、古典に親しむことを通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。特に、3年次では、多様なジャンルの文章を、特性を理解しながら読解することに重点を置く。
- ②基本的な古典の語彙力(古文・漢文)や文法の知識を身に付け、それによって日本の伝統的な言語文化に対する理解を深める。
- ③古典作品を通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章の種類、背景について理解を深める。 ・古典の文法事項、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・古典作品の修辞などの表現の特色について理解を深める。	・文章の種類を踏まえて、構成・展開を捉え、古典特有の表現に注意して内容を捉える。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、解釈を深める。 ・古典の作品と自分の知見を結び付け、考えを広げたり深めたりする。	・古典の知識・技能の獲得に向けて、自ら学習を調整し、学ぼうとしている。
評 価 方 法	・定期考査 ・課題の記述 ・小テスト 等	・定期考査 ・レポート ・課題の記述 等	・課題の記述 ・授業内での取り組み状況 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	漢古文：説話／随筆／日記	▼古文 ・『宇治拾遺物語』『晴明の術比べ』 ・『常山紀談』『太田持資歌道に志すこと』 ・『枕草子』『二月つごもりごろに』『頭の弁、職に参り給ひて』 ▼漢文 ・『孟子』『性善』 ・『荀子』『性悪』 ・『韓非子』『侵官之害』 ▽共通テスト対策／記述対策	a: ・語句の意味や用法・修辞を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。((1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。((1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・他の作品との関係を踏まえながら古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。(A(1)エ) c:古典に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
前期期末	漢古文：日記／評論／漢詩・漢文	▼古文 ・『蜻蛉日記』『町の小路の女』 ・『和泉式部日記』『夢よりもはかなき世の中を』 ・『俊頼髓脳』『沓冠折句の歌』 ・『無名抄』『おもて歌のこと』 ▼漢文 ・『史記』『廉頗・藺相如』 ・日本の漢詩文 ・『壇ノ浦』 ▽共通テスト対策／記述対策	a: ・語句の意味や用法・修辞を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。((1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。((1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)オ) ・古典を多面的・多角的な視点から評価し、日本の言語文化について考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)ク) c:古典に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
後期中間	漢古文：評論／物語／日本文学／随筆	▼古文 ・『源氏物語玉の小櫛』『もののあはれの論』 ・『源氏物語』『物の怪の出現』『三日がほど』『紫の上の死』 ・『堤中納言物語』『虫めづる姫君』 ・『大鏡』『道真の左遷』『肝試し』 ▼漢文 ・『長恨歌』 ・『古文真宝』『師説』 ▽共通テスト対策／記述対策	a: ・語句の意味や用法・修辞を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。((1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。((1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・古典の作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)カ) c:古典に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
後期期末	漢古文：随筆	▼古文 ・『折りたく柴の木』『六歳の夏のころ』 ▼漢文 ・『墨子』『兼愛』 ▽共通テスト対策／記述対策	a: ・語句の意味や用法・修辞を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことに取り組んでいる。((1)ア、エ) ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。((1)ウ) b: ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。(A(1)イ) ・古典の作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(A(1)カ) c:古典に親しみ自己を向上させ言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	精読古典	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書							
副教材等	新版 源氏物語で理解する 敬語・識別マスターワーク(数研出版)／九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法(数研出版)／三訂版 体系漢文(数研出版)／各種プリント等						

1 授業及び学習の方法等

1.副教材、ならびに配布したプリントに沿って授業を進める。古文は敬語を中心に、漢文は句法を意識しながら、本文全体を自力で、正確に読解する力を養う。 2.必要に合わせて追加プリント、資料等を随時配布し、当時の時代背景を理解しながら、より深い読解への助けとする。 3.一貫して『源氏物語』を用いることで、教材同士の繋がりを意識し、前後の学習に関連を持たせる。 4.自ら思考を進めていくための種を蒔き、古典文学に対する意欲的な姿勢を促す。
--

2 学習の到達目標

1.高校二年間で培った知識を、文章内で活用していく術を身に付ける。一問一答にならず、本文に見合った訳を適切に思い描けるようになる。 2.単語や文法だけでなく、正確な読解に必要な不可欠な古典常識等を知る。多方面の見解によって紙上の文学を立体視するよう心がけ、文学の広がりを実感する。 3.初読の文章であっても怯まず意欲的に読み取ろうとする意識を高める。結果的に共通テストや二次試験にも通用する読解力を習得する。 4.文章を記号的に読むのではなく、細部まで深く味わい、文学を鑑賞することのできる力を養う。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	- 基礎的な単語や文法を記憶し、文章読解に活かすことができるか。 - インプットした知識を咀嚼し、定着させ、状況に合わせてアウトプットすることができるか。	- 当時の時代背景や思想を意識し、読解に励むことができるか。 - 人物の心情等を正確に把握し、現在の自分と照らし合わせて考えることができるか。	- 初めて読む文章に対し、意欲的に臨むことができるか。 - 発問等に、積極的に答えようとする姿勢が見られるか。
評 価 方 法	- 定期考査 - ワークシート - 小テスト 等	- 定期考査 - ワークシート - レポート 等	- 授業態度 - ワークシート - レポート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめりと共に評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間		1.『源氏物語』桐壺・夕顔・紅葉賀・葵 2.『晋書』『文章軌範』『世説新語』	a:汎用性の高い頻出単語や文法を、文章内から 見つけることができる。断片的な知識を繋げて、 読解のために活用することができる。 b:中古の代表的な文学を読みながら、古来より多 大な影響を受けてきた中国漢文文化と日本文化 との関係について、理解を深める。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み 進めようと意欲を持つ。与えられた問いばかりで はなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする。
前期 期末		3.『源氏物語』須磨・明石・薄雲・蛭 4.『西京雜記』『後漢書』『商君書』	a:敬語を用いた表現方法を理解し、正確な読解 へと繋げる。漢文の読解や鑑賞に必要な知識を 学習する。 b:異なる国、様々な時代の人物の生き方につい て考える。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み 進めようと意欲を持つ。与えられた問いばかりで はなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする。
後期 中間		5.『源氏物語』野分・若菜・御法・幻 6.『宋名臣言行録』『蒙求』『貞観政要』	a:単語や文法の知識を定着させ、場面に合わせ てアウトプットすることができる。同時に漢文の句 法に関する理解と使用法を理解する。 b:日本古典と中国思想に関する漢文を読み比べ ながら、現代にも通ずる思想を自らのものとして考 え得る。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み 進めようと意欲を持つ。与えられた問いばかりで はなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする。
後期 期末		7.『源氏物語』橘姫・手習 8.『史記』『韓詩外伝』『漢詩』	a:初めて読む文章でも、今まで蓄積した知識を 駆使して理解しようと努める。 b:複数の資料を比較するタイプの問題にも、適応 する思考力を持つ。 c:文章を読む上で、今まで得た知識をもとに読み 進めようという意欲を持つ。与えられた問いばかり ではなく、自ら疑問点を探し答えを導こうとする

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※授業進度等により教材等が変更されることもある。

教科	国語	科目	精選国語	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	なし						
副教材等	現代文 長文 記述 問題集 入試必修編 3 三訂版(いっずな書店) 等						

1 授業及び学習の方法等

・現代社会で起こっている多様な問題に興味・関心を持ち、社会課題に対して当事者意識をもって向き合い、自分の意見や考えを明確に言語化する演習を繰り返す。
・文章表現の基本を学習し、意見文作成・記述解答演習・小論文演習などを行い、表現力を高める。
・電子版新聞を通じて時事的な知識を身につけ、小論文ノートに整理する作業を通じて、実社会の問題に対して興味関心を抱き、主体的に思考する態度を養う。

2 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	社会問題に興味関心を持ち、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評 価 方 法	・構成メモ ・意見発表 等	・小論文ノート ・ワークシート ・意見交流 等	・構成メモ ・小論文ノート 等

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	表現 入門	1.文章表現の基礎 2.多様な文章をまとめる 新聞記事の活用 3.要約演習 「里という思想」	a:言葉には自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解する。 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深める。 b:目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して伝えたいことを明確にする。 c:自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫する。
前期 期末	表現 錬成	4.小論文演習 -課題文読解型 -テーマ型 -図表読解型 5.構成メモの作成	a:自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深める。 b:自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫する。 c:読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫する。
後期 中間	表現 演習	6.小論文演習 7.記述問題集	a:話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分ける。 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深める。 b:論点を明確にして自分の考えと比較しながら、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりする。 c:自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫する。
後期 期末	実践 演習	8.記述実践演習 9.小論文実践演習	a:実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深める。 B:内容に関する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。 c:読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言を踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直す。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

※ 授業進度等により教材等が変更されることもある。